

## 鎌田地区 旧町名碑

江戸時代から昭和初期まであった町名の記憶を残すために、昭和62年から平成18年にかけて、松本市内には130基余りの『旧町名標識(旧町名碑)』が建てられています。

**中条**：この地域は、平安時代から鎌倉時代にかけて置かれていた捧庄(ささげのしょう)の中心地域にあたり、捧中村(条)と呼ばれていた。戦後の宅地化が進むまでは、一帯は整然と区画された水田が広がり条里的遺構もしのばれ、歴史的にも由緒ある景観を止めていた。地名の由来も捧庄中村の地名を今日に伝える由緒あるものである。

**井川(城)**：井は釜などと同様に湧水のあるところの地名である。建武年間に信濃守護小笠原貞宗がこの地に構えた城を井川館といたので、地名の起源はそれ以前である。戦国時代まではこの地が信濃国の政治の中心であったが、その後里山辺の林に館が移された。江戸時代には庄内組小島村とよばれた。

**鎌田**：「かま」とは水の湧き出る釜状になった地形をいい、鎌田は湧水地帯の水田の意味である。かつてこの地には権現の池という大きな沼があり、龍神が棲んでいて、人寄せの時に腕膳を貸してくれるように祈れば借りられたという伝承があった。この地は、中世は井川城の城下町であり、また江戸時代は庄内組鎌田村であった。

**両島**：両島の地名は、この地が上島、下島の二地域からなっていたことによる。両島には足半送りという厄除け行事が伝えられている。江戸時代初期にアカハラ病(赤痢)が蔓延したので、村人は大きな足半を作って、村の入口4箇所(現在は2箇所)の高い木につるし、大男がいるように見せかけて疫病神を追い払った。

**笹部**：この地域は、江戸時代から明治のはじめまで笹部新田村または笹部村であった。地名の起りは古代の豪族の姓(かばね)-称号-の一つ雀部(ささきべ)で、笹部と変化したとも伝えられる。

**征矢野**：征矢野の地名は、古代に信濃国から朝廷に梓弓が献上されたが、その弓に用いられた征討の矢(征矢)がこの地でつくられたという伝承による。中世には信濃守護小笠原氏の居館が井川にあり、この辺りにも町割りがあったといわれる。近世には庄内組征矢野村とよばれた。

**高宮**：この地域は、寛永年間(1633年頃)に鎌田村から分村し、明治のはじめまで高宮新田村といった。地名の由来は、この地が出川町に祀られている多賀神社(多賀宮)の入口にあたることから、その社名によるといわれている。

(松本市教育委員会文化財課『旧町名標識 一覧表』参照)

発行日：平成30年3月

発行：鎌田地区町会連合会 / 編集：鎌田地区公民館